



「あいさつ」の力とは

校長 浅見 正史

今、生徒たちは、新たな学年の生活にも慣れ、学習や部活動等への積極的な参加など、一生懸命頑張っています。特に、1年生の1学期は学習量も増え、学習内容も難しくなります。また、部活動も始まり「学習と部活動の両立」が大きな課題となります。辛いこと、苦しいことにもめげず、頑張ってください。



『すべてはあいさつから始まる』

生徒のみなさん、「あいさつ」がもたらす力は何だと思いませんか。あいさつとは、仏教の禅宗で使用されていた「一挨拶（いちあいっさつ）」、「一つ押して一つ迫る」という意味の禅の言葉をあてはめたと言われています。この禅の言葉の「挨拶」を漢文の読み下し文にすると、「挨拶（たたく）」「挨拶（ひらく）」となります。つまり、心のドアをトントンとノックして開けるという意味があると思います。

あいさつには、感謝を伝える、相手の存在を認める、仲よくなる、印象のよさを与えるなどのたくさんの力を秘めています。

では、あなたは気持ちのよいあいさつができる人ですか。気持ちのよいあいさつとは、にこやかに、相手を見て、はっきりと、必ず返すなど相手に対して安心感を伝え、与えることです。気持ちのよいあいさつのできる人は、信頼され、心づかいのできる人だと思えます。ですから、東中生のみなさんには、場面に適した、礼にかなった気持ちのよいあいさつが自然にできる人になってほしいです。あいさつはやらされることではなく、自分の考えでやってこそ学校教育目標の生きる力につながると思っています。

保護者、地域の皆様、あいさつは社会性を身に付けていく上で基本だと考えています。あいさつを通して、人とのコミュニケーションが生まれ、かかわりが深まり、人間関係が広がります。子どもたちにあいさつを教えることも大切ですが、「あいさつのできる大人」としての姿を示していきましょう。ご協力をお願いいたします。